

編集後記

『長崎大学言語教育研究センター論集第 7 号』を作成いたしました。この論集は、これまでは査読付き論文と一般論文に分かれていましたが、第 7 号からすべての論文が査読付きとなりました。1 編の論文につき 3 名ないし 4 名のその分野の専門家が査読いたしました。査読委員は、センター内から 5 名、学内から 1 名、さらに学外から 6 名の計 12 名から構成いたしました。特に学外の査読委員は、所属の学会等において、学会誌の査読委員を長年経験されている先生方をお願いいたしました。

提出論文は、査読委員の評価点、コメント等を参考に、センター内の査読審査委員会によって厳正に審査され、掲載論文が決定いたしました。今回は 4 編の論文が提出されましたが、2 編が論文として掲載されることになりました。例年よりかなり数が少なくなりましたが、査読を実施することによりかなりの質の向上がみられたものと思います。

論文とは別に、第 7 号から新たに研究ノートや授業実践報告も論集に掲載することにいたしました。今年度は掲載希望がありませんでした。特に授業実践報告は各先生が授業方法などを共有できるよい機会ですので、来年度以降は多くの掲載希望の原稿が提出されることを希望いたします。

査読にあたった先生方は、多くの方が年度末の忙しい時期にもかかわらず、詳細なコメントを作成し、掲載論文の質を高めるため、多くの修正箇所の指摘をしてくださいました。査読委員の先生方の献身的なご協力に、心より感謝申し上げます。

(編集委員長 小笠原 真司)